

# 第7回文化発信戦略に関する懇談会 議事録

日時:平成20年6月30日(月曜日)14:00~16:00

場所:東京大学駒場キャンパス 駒場ファカルティハウス

出席委員:池上委員,北川委員,久保委員,扇田委員,遠山委員,福原委員,森口委員,山内委員

(冒頭,小島憲道東京大学大学院総合文化研究科長・教養学部長より御挨拶。)

## ■ 中間まとめ(案)について

(前回からの変更箇所について事務局から説明後,委員等から御発言。)

- 改めて全体を見直して,文言について気になるところが3点ある。まず,冒頭ページの1番目の文章について,「世界における日本の地位の向上に貢献する」という表現は,「地位の確立につながる」といった表現の方がよいのではないか。次に,3番目の文章は,なお書きとして最後に置くのではなく,2番目に置いて文化発信とは何たるかについて述べる文章とした方がよい。さらに,この文章中の「文化の発信とは,必ずしも容易に享受できる娯楽を提供することではない」という表現について,これは,あるいは文化の発信とは容易に娯楽を提供することであるというふうに読めてしまい,気になる。
- 文化的な娯楽の提供については,日本文化が海外に広がっていく一つの大きなきっかけとして,重要な面があると考え。我々も,まずアメリカやヨーロッパの娯楽をきっかけにして,その文化を知ることとなったのではないか。マンガ・アニメ・ゲームの娯楽としての受容をきっかけに,日本の文化のいろいろな面が知られる,今,その貴重な機会がきていると思う。
- 内容について気になる点が3点。まず,「企画のメニュー化」について,文化発信というのは,それを受信する人との協力作業であるべきところ,こちらがメニューをつくって相手に選んでもらうというのは,文化的でないと感じる。次に,「日本人自身が日本文化への理解を深め,文化発信できるよう,ホームページを通じた日本文化に関する情報の提供を図る。」については,文化庁の役割を明確にするべきではないか。最後に,日本文化に関する研究を行っている研究教育機関のネットワーク化を図り,そこと連携しながら文化発信することが大切ではないか。
- 企画のメニュー化については,お仕着せにするという意味ではなく,海外と連携して日本文化を発信していく際の,我々の具体的なビジョンとして重要。

※座長より,座長一任で必要な修正をすることが提案され,委員了承。

## ■ 今後の進め方(案)について

(事務局から説明後,委員等から御発言。)

### 全体について

- 多様な課題があるので,中間まとめは総花にならざるを得ないが,次なる具体策の検討が必要。
- このままでは具体性に欠けるため,すぐできるものや余り年数をかけなくてもできるものについて,目

玉として具体化していくべきである。

- 今後、目的とその手段をきちんと整理すべきである。
- 福田総理が5月に、留学生30万人計画及びアジア版エラスムス計画に取り組む旨のスピーチをされた。こういった新しい施策の進展をにらみつつ、この中間まとめに記された「速やかに着手すべき文化発信のための取組」以外についても、必要に応じて検討したらよいのではないか。

#### 日本文化の情報拠点の整備について

- メディア芸術の拠点整備について、マンガ・アニメ・ゲームの三者が、海外に向けてどう発信するかということと同じ場で検討したことはないので、是非取り組みたい。
- 日本文化発信の基盤となる施設については、ハードを一般的に充実するというのではなく、日本文化の発信に資するソフトを支援することが重要。その際、民間の力も大いに借りた方がよい。
- 日本文化発信の基盤として、国立以外の美術館・博物館・劇場の活用についても併せて考える必要がある。
- メガ美術館・博物館をつくることより、既にある多様な美術館・博物館が連携して海外に見せるやり方を考えた方が、実現性が高い。
- 日本は、貴族も武家も庶民もそれぞれの文化を持つとともに、北海道から沖縄までバラエティーに富む風土を持っており、重層的で多様な文化のある国。日本の町や村に、どんなに小さくても住民が愛してつくった美術館・博物館がある。これらを多くの人に見てもらうことも、日本文化の特異性を理解してもらうことにつながる。
- ネット上に世界最大の美術館を構築してはどうか。
- 上野には、美術館・博物館が集積している。ここを文化ゾーンとして、雨の日でも行きやすいように地下でつなぐとか、域内どこにでも入れるとかいう仕組みにするとよい。こういった文化ゾーンを日本で幾つか作るとよい。

#### 文化芸術創造都市の取組の促進について

- 「地域からの文化芸術の創造と発信のための取組」は大変重要。地域における自主的で着実な取組、自主的な文化芸術の多様な創造なくして、国際的な広がりはない。
- 日本の取組がアジアのモデルとなり、広がっていくとよい。また、EUのように、アジアでも文化首都の取組ができるとよい。その際は、外務省や国際交流基金との一層の連携が必要となる。

#### 文化発信に貢献した外国人などの顕彰制度について

- 外国人などの顕彰制度は一番の目玉になると思う。中間まとめでは漠然とした指摘に留まったので、具体案を出していきたい。
- 日本のために大変重要な仕事をされた方を、文化庁長官表彰で表彰してはいかがか。表彰の名称は、効果的なものとなるよう工夫する。
- 優れた翻訳事業(翻訳者と出版社)に文化交流大賞を出してはどうか。

#### その他

- メディア芸術祭の海外への発信については、出来上がったものを見てくれというより、海外の作家の活発な参加により、ひとりでに海外で報道されるようになる、という観点が重要。
- 日本人自身の日本文化理解促進について、検定試験のようなものをやるのもアイデアとしてよいのではないか。
- 国内の旅行熱が非常に高い団塊の世代に向けても、観光と文化施設の案内の連携をもっとうまくできるとよいのではないか。
- 文化財の保護については、無形のものも含めて今後検討すべきである。